

三木市制施行70周年記念事業

三木の祭り屋台 大集合

-GUIDE BOOK- ガイドブック

2024.10/26 (土) 午前9時~

場所: 三木山総合公園 陸上競技場

主催・問い合わせ先

三木の祭り屋台大集合実行委員会 事務局 三木市総合政策部企画政策課 TEL:0794-82-2000(代表)

タイムスケジュール

9:00~10:30	屋台入場
10:30	開会セレモニー
10:40~12:00	屋台グループ練り
12:00~13:00	体験イベント
13:30~14:00	屋台総練り
14:00	閉会・屋台退場

★グルメストリート 9:30~14:00

※当日の進行状況により、一部変更する場合があります。
 ※体験イベントのうち、太鼓体験は当日参加できます。
 屋台を担ぐ体験(事前申込)

シャトルバス乗車時刻

運行経路	8:30~16:15
三木山多目的広場 ↔ 会場 (三木南交流センター横)	約15分ごと
神鉄「恵比須」駅 ↔ 会場	約15分ごと
イオン三木店 ↔ 会場 (神鉄「三木」駅 経由)	約30分ごと

直行便

【往路】各公民館 → 会場
 8:30発、9:10発、
 12:10発

【復路】会場 → 各公民館
 11:50発、14:30発、
 15:10発

※当日の交通状況により、シャトルバスが遅延する可能性があります。
 増便はありませんので、ご了承ください。

会場内マップ



〈注意事項〉

- 記録動画の撮影を行いますので、ご理解・ご協力いただきますようお願いします。
- 陸上競技場内はペットの同伴はできません。

屋台とは？

五穀豊穰や疫病退散、不老長寿などの願いを込めて担ぐものです。三木の祭り屋台は、「布団屋台」や「タイコ」とも呼ばれ、大工、刺繍、彫刻、銚金具、鳴り太鼓といった職人の技が見える華やかなものです。主に、5月の春祭りと10月の秋祭りで見ることができます。



布団屋台

三木の祭り屋台は台座の上部に赤い布団を積み上げているのが特徴で、「タイコ」のほかに「布団屋台」とも呼ばれています。

布団屋台は瀬戸内海の沿岸一帯に広がっています。諸説ある中で、高田屋嘉兵衛らによる蝦夷(北海道)松前との交易など、江戸後期には瀬戸内での船の往来が活発になる中で、情報が交換され、祭りの形式が似通ってくるうちに、布団屋台が普及したと考えられています。

なぜ布団を乗せたのかは、「神さまが休めるように」など、さまざまな説がありますが、はっきりとしたルーツは分かっていません。

【参考】三木市観光協会 三木の祭 屋台・獅子舞・写真集



▲三段の平屋根(加佐東)



▲反り屋根(石野)



▲播磨町阿閩神社秋祭絵巻(1820(文政3)年)に描かれた、初期の布団屋台と思われる屋台。当時すでに祭りに練りだしていた三木の布団屋台も近い姿であったと考えられている。

屋台各部の名称

布団屋根

赤い布団の3段、反り屋根などの屋根がある

水引幕

四本柱の周りに巻く細長い幕

長胴太鼓

通称「鳴り太鼓」。乗り子が叩く合図で屋台が動く

布団締め

布団屋根の四方に取り付けられた装飾。反り屋根屋台の場合は梵天となる

狭間彫刻

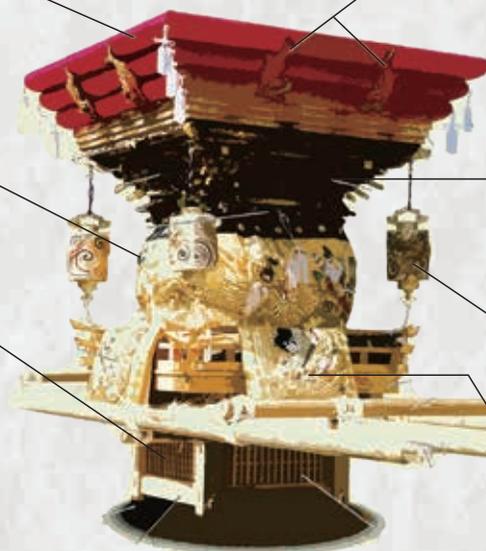
屋台の四方を飾る彫刻

昼提灯

絵柄や文字の刺繍の入った飾り提灯

高欄掛

豪華に装飾された四角の刺繍飾り



三木の祭り

神社名	所在地区	祭礼日(2024年度)
① 三坂神社	加佐西、加佐東	5月2日(木)・3日(金)
② 美坂社	東這田	5月3日(金)・4日(土)
③ 御酒神社	石野	〈宵宮〉5月3日(金) 〈本宮〉5月4日(土)
④ 御坂神社	志染(旧安福田)、志染(旧志染中)	〈宵宮〉5月4日(土) 〈本宮〉5月5日(日)
⑤ 熊野神社	興治	10月5日(土)・6日(日)
⑥ 八雲神社	花尻	10月5日(土)・6日(日)
⑦ 大日神社	細川中	10月6日(日)
⑧ 三坂神社	大柿	10月5日(土)・6日(日)
⑨ 禰御門神社	大村	10月12日(土)
⑩ 大宮八幡宮	明石町、新町、全末廣、下町、榮町、高木、平田、大村、(城山町)	〈宵宮〉10月12日(土) 〈本宮〉10月13日(日)
⑪ 八雲社	久留美、与呂木	10月13日(日)・14日(月)
⑫ 若宮八幡宮	宿原	〈夜宮〉10月19日(土) 〈昼宮〉10月20日(日)
⑬ 岩壺神社	岩宮、大塚、芝町、大手、東條町、滑原、宿原	〈宵宮祭〉10月19日(土) 〈例大祭〉10月20日(日)

※三木の祭り屋台大集合に参加している地区のみ記載しています。



祭りの掛け声

三木の祭りで屋台を担ぎ上げる時の代表的な掛け声は、

- ・打ってくれ(ドンドン)
- ・あ、もひとつせえ(ドンドン)
- ・よいとさんど(ドンドン)
- ・ソラ差しましょ

これは祝い事の手締めのひとつ「大阪締め」と合致する。

大阪締め「打ちましょ」「もひとつせ」「祝うて三度」が訛ったものと考えられています。



【出典】三木市観光協会 三木の祭 屋台・獅子舞・写真集

Profile

参加屋台プロフィール

今回の三木市制施行70周年記念事業「三木の祭り屋台大集合」に参加する30基の屋台の簡単なプロフィールを紹介します。(入場順)プロフィールは各町などのご協力により作成しています。

大宮八幡宮 ⑩

明石町

明石町屋台は、幕末安政年間頃の作と伝えられている歴史ある屋台です。3段の雲板、井筒など、独特な構造を持っています。狭間と鳴り太鼓は幕末以来使い続けているものです。これまでに本体の改修や装飾品の新調を重ね、令和になった今でも大切に使っている屋台です。



大宮八幡宮 ⑩

新町

平成21年に新調した布団反り屋根山型の華麗な屋台。別染めの色系が重厚さを醸し出す「宇治川先陣争い」の水引幕、「金物古式鍛錬」の狭間彫刻、ダイナミックな「鳳凰」の提灯受け、屋根で踊る「鯨」の梵天が特徴です。鳴り太鼓は鏡面2尺6寸を使用しています。



大宮八幡宮 ⑩

全末廣

先代屋台で大宮八幡宮に奉納を始めてから今年で95年。平成14年に新調した全長10m、全幅3.4m、高さ4mの総檜造りの屋台には、越中井波の彫刻師 畠山勲氏が手掛けた「三木城の合戦絵巻」が狭間の4面に組み込まれ、鳴り太鼓は播州最大級の鏡面3尺を使用しています。



大宮八幡宮 ⑩

全末廣子ども屋台

今年で20周年を迎える子ども屋台は、昭和4年から80年以上に渡り継承されてきた旧大屋台を基本として製作しました。全長7m、全幅2.8m、高さ3mで、鳴り太鼓は鏡面2尺2寸の他では類を見ない大きさを使用しています。末広在住の約240名の子どもたちにとって誇りの屋台です。



大宮八幡宮 ⑩

下町

「ふんどし屋根」と呼ばれる反り屋根が特徴。平成8年に新調後、平成22年に大改修された重さ1.8tの最大級の屋台です。水引幕は「龍玉取図」、高欄掛は「源頼光」「加藤清正」「伊勢三郎」「半蔵」による退治物図です。鳴り太鼓は胴直径3尺5寸、長さ3尺6寸5分と大きく、重低音の音圧が心地よく人々を包み込みます。



大宮八幡宮 ⑩

榮町

平成14年に大改修が施されました。水引幕は川村刺繍製「海女の玉取り」、高欄掛は梶内製「退治物」4点。昼提灯は「阿吽の龍」、布団締めは「龍・鳳凰」の図柄。狭間彫刻は岸和田の新生 山本仲伸が製作した源平合戦物。雲板は姫路の中山龍雲の「春夏秋冬」の図柄。鳴り太鼓は太鼓正製作の鏡面2尺4寸5分を使用しています。



大宮八幡宮

⑩

高木

秋の例大祭では、御神輿を町外れから御旅所まで先導する高木屋台。狭間彫刻は、川原啓秀作で「川中島合戦」「曾我五郎大磯騷進」「新田義貞稲村ヶ崎奉剣」「吉良邸清水一学勇戦」があしらわれています。また、水引幕は須磨・細川製で正面は城と大蛇を配した退治物。

伝統的な神事と担ぎ振りを重んじる高木です。



大宮八幡宮

⑩

高木子ども屋台

現在の高木子ども屋台は、平成25年に購入した屋台を少しずつ修繕しながら祭りで活躍しています。地域文化の継承・後継者の育成、そして子どもたちに地元へ愛着を持ってもらえるよう頑張っています。子ども屋台ですが刺繍・金具などは一見の価値あります。



大宮八幡宮

⑩

平田

昭和53年に平屋根布団屋台に改修し、今では伊勢海老の梵天がシンボルとなっています。水引幕は三木にゆかりのある神功皇后の「三韓征伐」の場面、高欄掛は「宇治川の先陣争い」、昼提灯には「阿吽の龍」があしらわれており、いずれも大正末期の絹常製。狭間彫刻は三代目松本義廣作。鳴り太鼓は鏡面2尺4寸を使用しています。



大宮八幡宮⑩・禰御門神社⑨

大村

平成10年に大改修。布団締めは黒帯に昇竜。飾り金具は兎と八咫鳥。狭間彫刻は明治25年に名彫刻師「柳源五郎正則」が彫り上げた大岩戸、屋島合戦、節分豆打ち、加藤清正征韓の見事な図柄。水引幕は八岐の大蛇、振動で目が動くのが特徴。昼提灯は昼夜ともに若中の文字を伝承しています。



大宮八幡宮

⑩

城山町

昭和50年、下町から布団屋根、水引幕などを譲り受けてあとは手作りして仕上げた屋台。平成7年を最後に大宮八幡宮への宮入は休止中。市制施行70周年屋台大集合参加に向けて新調した布団屋根については町の伝統を継承し、手作りにて製作、鳴り太鼓は宝くじ助成事業により鏡面2尺2寸、樺胴(大阪太鼓正製作)を購入。水引幕は「龍王登志丸」、高欄掛は退治物4面、共に歴史の古い逸品。



熊野神社

⑤

興治

別所町興治にある熊野神社秋祭りは獅子舞で有名ですが、子ども屋台にも長い歴史があります。

一本龍の水引幕と提灯は絹常製で、高欄掛には退治ものがあしらわれています。鳴り太鼓は中学生までの男女が叩くのが伝統で、道開きの神様、猿田彦の具現である「ハナ」が露払いとして屋台を先導します。



美坂社

②

東這田

淡路の柏木福平によって昭和3年に建造、平成14年に大改修。狭間彫刻は井波彫刻師の川原啓秀作「楠公子別れ桜井の駅」など、水引幕は「平清盛と安芸の宮島」、背面には赤間神宮、高欄掛は「壇ノ浦の合戦」、鳴り太鼓は2尺4寸を使用しています。



八雲神社

⑥

花尻

平成24年に大塚の旧屋台を譲り受け翌年に大改修。狭間彫刻は彫師 柳正則による銘品。水引幕は「素戔鳴尊八岐大蛇退治」、高欄掛は退治もの四面。いずれも名縫匠絹常製を復元修復ならびに復元新調しました。布団締めは「阿吽の鯨」、昼提灯に「阿吽の龍」。鏡面2尺4寸の鳴り太鼓は寛政7(1795)年ともいわれる年代物です。



御酒神社

③

石野

平成11年に新調し、後に大きな反り屋根に改修。令和元年に担ぎ棒を杉に変更、鳴り太鼓は2尺5寸を使用しています。御酒神社の例祭では、宮と公民館をつなぐ坂道を登る「急坂登り」が見どころ。石野独自の「上げ歌」「色歌」が特徴で氏子の誇りです。



岩壺神社

⑬

大手

自慢は、市内屈指の2尺6寸の大鳴り太鼓。象徴は屋根に輝く扇の留め金具。特徴は、平屋根特有の雲板と反り屋根特有の垂木を合わせ持つこと。大手町屋台の歴史は古く、昭和31年に購入し、平成28年に螺鈿細工の高欄の復元などを施しました。名彫刻師 鎌田秀一作の狭間彫刻など、匠の技を今も大切に受け継いでいます。



岩壺神社

⑬

東條町

明治中期の型を受け継ぐ三日月型に反った屋根が特徴の屋台。総樺造りで、金具は総すかし彫りで随所に古き良きこだわりを持っている。狭間は播州飾磨彫刻師 二代目 松本義廣作。自慢の絹常四代自作の高欄掛は見もの。水引幕は平清盛が日招きの場面。鳴り太鼓は鏡面2尺7寸ある。屋台は全長9.6m、全幅3.0m、高さ3.5m。青年団の赤い法被が目印です。



岩壺神社

⑬

滑原

滑原町屋台は文化14(1817)年と文政3(1820)年に荷ひ太鼓奉納を行ったとして三木市有宝蔵文書に記されており、荷ひ太鼓という表現では市内最古です。現屋台は、平成10年に購入、大改修を行ったもので、屋根の薄い、古い姿を伝えています。

鳴り太鼓は2尺7寸の大きなものが自慢です。



三坂神社

①

加佐東

昭和29年の台風で屋台庫ともども大破し翌30年に新調。布団締めと提灯は「阿吽の龍」をそれぞれに刺繍。水引幕は2尾の龍が勇猛に演出されている。高欄掛けは、川中島の合戦を舞台に各武将をあしらい、雲板には前後に鳳凰、左右に龍を彫刻。桝組の細工が珍しい仕様となっています。



三坂神社

①

加佐西

平成18年に購入。布団締めは「阿吽の鯨」、狭間彫刻は唐獅子牡丹、昼提灯は「阿吽の龍」、水引幕は「阿吽の追い龍」、高欄掛けは源平合戦一ノ谷の戦い「白馬に跨る源義経」、「長刀を持つ弁慶」、「平家方の武者」、「鷲尾三郎熊退治」の四幕。全長6m、全幅2.5m、全高2.6mとなっています。



八雲社

⑪

久留美

万延元(1860)年に地元で製作された三段布団平屋根屋台で、いくたびの改修を重ね地元の誇りとして継承してきました。平成26年に布団屋根、飾り金物、担ぎ棒の改修を行い、屋台四隅の飾り房は古来の逸品として20年の時を経て復活しました。水引幕は「大阪夏の陣」、高欄掛は退治物、昼提灯は「雲龍阿吽」で淡路の梶にて製作。



岩壺神社

⑬

岩宮

岩宮屋台のシンボルはなんといっても「阿吽の鯨」。デザインは以前のもと同じですが、5年前に新調し、ひと回り大きくなったため迫力が増して屋台を引き立てます。狭間彫刻は経年劣化などによる損傷がありましたが、今年度修理し、元の面影を取り戻しました。岩宮町民一丸となって豪華絢爛な屋台を力強く担ぎ上げます。



岩壺神社

⑬

大塚

「明るく、楽しく、元気よく、笑顔でさわやかに」のもとに勇壮かつ可憐に担ぎ上げます。大塚町は、商売繁盛を祈願して毎年1月第2土・日曜に三木戎まつりを開催している戎神社のお膝元であり、屋台の水引幕にも戎神社に鎮座するえべっさんをはじめとした「七福神宝船」の図柄が描かれていますので、見た方に幸福が訪れることでしょう。



岩壺神社

⑬

芝町

三木で初の布団屋根に波・雲・渦の刺繍を入れ、繁栄を願い町名に鷹を飛ばし、風神を天幕に施した。鳴り太鼓は、鏡面2尺5寸の本樺製で奥行きのある音です。水引幕は「平清盛、安芸の宮島にて威勢を挫く」、高欄掛は「宇治川の先陣争い」、自慢の提灯は「青龍・白虎・朱雀・玄武」の四神が、狭間は四面とも太閤記が彫られている。高欄には見事な十二支の彫刻が刻んである。



若宮八幡宮⑫・岩壺神社⑬

宿原

明治30年から使用している古い屋台ですが、度々の修繕改修で美しさを保っています。

水引幕は白地に乙姫様が美しく描かれた浦島伝説。高欄掛は「源義経八艘飛び」「武威坊弁慶」「錨知盛(平知盛)」「平教経」の源平もの。狭間彫刻は彫師「柳甚平」作の歴史あるものです。



八雲社

⑪

与呂木

昭和3年に購入した屋台を平成17年以降、屋根や高欄掛、土露台などを改修し、あわせて水引幕や提灯、高欄掛を新調。担ぎ棒は与呂木にある「秀吉本陣跡」の山から町民が協力して切り出し製材しました。越中彫師「川原啓秀」作の三枚合わせの狭間彫刻や透かし彫りの雲板は大切に継承しています。



大日神社

⑦

細川中

三木合戦の時代に三木城の支城「中村城」があった歴史ある農村の細川中では、大日神社の秋祭りに屋台が出ます。

鳴り太鼓は江戸時代からのもので伝統があるので自慢です。雲板は「鷲と兎」、狭間彫刻は鎌倉時代の豪傑武将「朝比奈三郎 鍛引き」、水引幕は「昇り龍」、高欄掛は「虎」があらわれています。



三坂神社

⑧

大柿

先代屋台を平成11年に新調。三段布団の反り屋根型で布団締めは金綱、金糸刺繍の水引幕は「大坂夏の陣」、高欄掛は「空」「地」「水」「地中」を表した退治もの、屋提灯は「大阪城と阿吽の龍」を表現。狭間彫刻には「弁慶と牛若丸」「源義経の八艘飛び」「平景清の鍛引き」「源為朝の強弓」があらわれています。



御坂神社

④

志染 (旧志染中)

昭和2年に購入。布団台が5段あり、3段目中央に大きな龍の浮き彫り彫刻があります。雲板には鳳凰の透かし彫りが施されています。また大きな特徴として、太鼓隠しの土露台部分に土露台彫刻と呼ばれる彫刻が施され、枺組、隅木がないなど、市内でも最古級の屋台です。



御坂神社

④

志染 (旧安福田)

昭和3年に新調。屋台は淡路の柏木福平が製作した総ケヤキ造り。狭間彫刻は越中富山の初代川原啓秀が手掛けました。水引幕は初代の水引幕を復元した「韓のケツ童子」の図。高欄掛は武将の合戦図。屋提灯は二対の阿吽の龍。鳴り太鼓は鏡面2尺1寸を使用しています。

